

アチエ州西海岸に、水を、食糧を

スマトラ島沖地震 インドネシア緊急支援



緊急支援を即日決定 発生当日=12月26日

スマトラ島沖地震と津波による甚大な被害のニュースが入り始めたのは、26日午後。ニュースを知ったスタッフが、災害対応チームや海外事業部チーフに連絡を入れました。新潟県中越地震でも活動し、年度末会議などで地震をはじめとした国内外の巨大災害に対応する方針を確認していたPWJは同日夜、緊急のチーフ会を招集し、被害が国際支援の必要なレベルになるとの認識で一致。1997年からPWJがインドネシア国内で支援活動を続けてきたことも考慮し、震源に近く、大きな被害が予見できたスマトラ島北部のナングル・アチ・ダルサラム州(旧アチエ特別州、以下アチエ州)での緊急支援を決定しました。

日本から第1陣、2人出発 支援1日目=12月27日

現地で緊急支援にあたる第1陣の支援チームとして、インドネシアの首都ジャカルタに駐在し、同国内での支援事業を進めてきたキャメロン・ノーブルと、インドネシアなどを管轄する第3グループのリーダー金丸智昭が27日午前、成田空港を出発し、夜にはジャカルタに入りました。

並行して、ジャカルタ事務所のインドネシア人スタッフには、スマ



支援物資を届けたPWJを歓迎する被災者(1月1日、ムラボー)

インドネシア・スマトラ島沖で2004年12月26日朝(日本時間9時58分)に発生した地震と津波による被害を受け、ピース ウィンズ・ジャパン(PWJ)は即日、インドネシアでの緊急支援を開始することを決定。くしくも1年前の同じ日に発生したイラン南東部地震への対応と同様、年末年始返上で支援活動を開始しました。今回のニュースレターは特別号として、支援者のみなさまにスマトラ島沖地震緊急支援の初動7日間の模様を報告します。



地震と津波によるムラボー市内の被害(1月2日)

ラ島入りして情報収集を開始するよう指示。同日のうちに、救援拠点の一つである北スマトラ州の州都メダンに入りました。

州都バンダアチエの状況確認 支援2日目=12月28日

アチエ州北端の州都バンダアチエにインドネシア人スタッフが到着。彼が伝えた情報は、建物の3分の2が崩壊し、死傷者も多く出ているというものでした。援助物資は空港に集積されつつあるものの、ガソリンの欠乏のため、空港と市内、空港とバンダアチエ近郊とを結ぶアクセスが大きな課題となっていることも判明。一方で、アチエ州の他の地域についての情報はほとんどなく、懸念が広がりつつありました。

政府と反政府勢力との間で衝突が続いていたアチエ州では、外国人の立ち入りが認められていませんでした。しかし、インドネシア政府は28日までに、この制限を撤廃しました。

日本からのスタッフはメダンに到着し、水や食糧など緊急支援物資の調達が本格化しました。スマトラ島の東海岸にあるメダンは津波の被害はなく各種物資の調達が可能でした。

緊急支援物資の調達続く 支援3日目=12月29日

メダンやバンダアチエでの情報収集の結果、被害の甚大だったアチエ州西海岸では、インドネシア政府などがわずかな物資を空中から



空輸した物資を下ろす
ブランビディ空港
1月1日

★特集は裏面へ続きます。

この紙は再生紙を使用しています。

投下したのみで、援助がほとんど届いていないことがわかつてきました。ムラボーの空港は被災し、道路も寸断されているとのことでした。

PWJはメダンで、水、パック入りのジュース、ビスケット、ビニールシート、ろうそく、腰巻布(サロン)、ライターなどの調達を続行。

支援拡大に対応するため、日本から支援チーム第2弾、2人を追加派遣しました。



被害の大きいムラボー市内(1月2日)

ムラボーへの支援を決定 支援4日目=12月30日

PWJはムラボー地域に対する支援を決定。ムラボーでは港も被災し、海からのアクセスも困難でした。空港の被害状況、アクセスルートに関する情報は混乱を極めています。

日本から支援チーム第3弾、2人が出発。

支援チーム、メダンに集結 支援5日目=12月31日

支援チームはメダンに集結し、情報を分析。ムラボー入りのため、飛行機などをチャーターする目途も立ちました。

ムラボーに待望の支援物資 支援6日目=1月1日

ムラボーへの支援開始。第1便是メダンから、インドネシア政府関係者のヘリコプターに緊急の医薬品を持って乗り込み、ムラボーに直接入りました。

ムラボーの空港は、復旧の見込みはありません。支援第2弾はメダンから小型のチャーター機で、ムラボーの南東約70キロにあるプランビディの小さな飛行場まで飛び、そこからトラックを借り上げ、約2時間



物資に集まる子どもたち(1月2日、ムラボー)

アチェ州～分離・独立めぐり70年代から闘争

スマトラ島北部に位置するインドネシア北西端の州。人口は約420万人。同州のインドネシアからの分離・独立をめぐって1970年代から武力闘争が繰り広げられてきました。闘争は99年から2002年にかけて激化し、アチェに移住した多くのジャワ系住民が、迫害を恐れ、避難民となりました。PWJは2003年4月から、中部ジャワ州のボヨラリ県に逃れてきたアチエ避難民61世帯、約200人を対象に、現地NGOと共同で再定住支援事業を行っています。

かけてムラボーに向かいました。物資は約350キロ。途中で出会った子どもたちは「やしの木よりも高い津波がやってきた」と恐怖を話しました。ムラボーでは、目の前にがれきの山が広がっていました。

物資が届くと被災者たちが荷下ろしを手伝い、子どもたちは「ジャパン、ジャパン」と声を上げ、周りを囲みました。

人口約4万人のムラボーで約3万人が犠牲になったと聞かされました。



トラックに支援物資を積み込む
(1月3日、メダン)

状況を見極め、活動を継続

支援7日目=1月2日

メダンからプランビディ経由で支援物資をムラボーに運ぶほか、プランビディでも物資を買い付け、トラックでムラボーへ。物資は災害対策本部や避難所などへ届けました。

被害の大きさを考えると、復旧・復興には長い時間がかかることが予想されます。現在は、水や食糧、医薬品など緊急支援物資が必要ですが、支援が長期化するとともに、支援内容も被災者のニーズに合わせて変化します。PWJは、現地のニーズを見極めながら、支援地域や活動内容を決め、今後も支援を継続します。

【スマトラ島沖地震緊急募金にご協力を】

PWJでは、スマトラ島沖地震緊急募金を受け付けています。
みなさまのご協力をお願いします。

※郵便振替 口座番号: 00160-3-179641
口座名義: 特定非営利活動法人 ピース ウィンズ ジャパン
通信欄: インドネシアと明記してください

※銀行振込 三井住友銀行青山支店 普通口座 1691554
口座名義: 特定非営利活動法人 ピース ウィンズ ジャパン
(銀行振込の場合には領収証を発行することができません。ご了承ください)

※インターネット インターネットからのクレジットカード決済も可能になりました。
どうぞご利用ください。
<http://www.peace-winds.org/>

生活している空間が流された・・・

PWJスタッフ、高橋郁の話(1月1日にムラボー入り)

「ムラボーでは、500~600メートルの幅で砂浜が続いていました。しかし、実はそこは砂浜ではなく、以前、民家が並んでいた場所でした。家は海岸から数百メートル押し流され、道路の上などにがれきとなっていました。車が前部を下にして突き刺さっているところを見たりすると、津波の恐ろしさを感じます。

がれきをじっと見ていると、そのなかに布団や鍋のふた、洋服などが見えてきました。生活している空間が流されたのです。「砂浜」でみかけたおばあさんは、自分の家の跡から、食器や洋服など使えるものを探していました。

泣いている人にはあまり会いませんでしたが、聞き取りをしているうちに涙を流す人は何人もいました」



[イランやインドでも活動～PWJの災害支援]

PWJはこれまで、2001年1月のインド西部地震、2003年12月のイラン南東部地震、2004年10月の新潟県中越地震でも緊急支援を実施。アフガニスタンやイランでは耐震技術の普及にも取り組みました。インドネシアでは、水害時の緊急支援を実施したことあります。